

広い視野で物事を見る



先週から学校の玄関に、七夕飾りがしてあります。たくさんの方が、短冊に願い事を書いてくれましたね。私も「今日もみんな笑顔で!!」と書きました。

七夕というのは、夏の夜空に浮かぶ織女星（おりひめ）と牽牛星（ひこぼし）のお話ですね。おりひめはこと座のベガ、ひこぼしはわし座のアルタイル。どちらもとても明るい星で、日本では9月上旬頃までよく観察できるそうです。

七夕の日である7月7日に、宇宙にまつわるとてもスケールの大きな記事を新聞で見つけました。

2014年12月に日本で打ち上げられた探査機「はやぶさ2」が、地球から約1億km離れた小惑星「トリフネ」に、超高速で接近しながら観測する「フライバイ」というミッションに成功しました。

最大直径が約800mの小惑星「トリフネ」に、はやぶさ2は秒速5kmの速さでぎりぎりまで近づきました。そしてすれ違いざまに写真を撮影しましたが、とてもきれいに撮影されていました。このミッションは、研究チームによると、「北海道にある1円玉に沖縄からボールを投げて命中させる」ほどのコントロールがいることだそうです。

ところでこの研究は、どのように生かされるのでしょうか。

地球の近くには、小惑星や隕石がたくさんあります。現在4万個以上発見されています。その中には地球にかなり近づく可能性があるものもあり、もしも地球に衝突したら、想像できないほどの被害が出るかもしれません。

そこで、こうした小惑星や隕石が発見された場合、探査機をぶつけて軌道を変え、地球に衝突するのを回避しようという研究が進められているのです。

あまりにもスケールが大きすぎて、想像するのも難しいのですが、地球防衛のための研究に、日本の技術力が大きく貢献していることは、間違いありません。

宇宙から飛んでくる物体から地球を守らなければならない。そんな時に、国どうして争いごとをしている場合ではなくなります。同じように、温暖化やごみ問題、エネルギー問題なども、地球規模の課題です。私たちは毎日、学校生活の中で学び、なかまと過ごしています。その積み重ねは将来、社会や世界の課題を解決する力につながっていくのですね。